

# 大西洋クロマグロ 西大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



## 漁業資源の動向

漁獲量は1981年までは5,000トン前後で推移したが、漁獲規制により1983年以降ほぼ2,500トン前後となり、2002～2007年にかけて3,319トンから1,638トンに減少した。その後1,900トンから2,000トンの間で推移し、2012年の漁獲量は1,758トンであった。2003年以降の漁獲量の減少は、米国での不漁が主な原因である。

## 管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

## 最近一年間の動き

2012年のICCATへの報告漁獲量は約1,760トンであった。ICCATでは2012年9月に資源評価を更新した。科学委員会(SCRS)は2013年に3つの会議を開催し、2015年に予定している資源評価へ向けて、生物学的データ及び資源評価手法に関して検討し、今後の詳細な作業計画を作成した。さらに、2013年のSCRSは各資源量指数の更新を行い、2012年の資源評価と判断が変わらないことを確認した。加えて、2013年は行政官と研究者の共同会合を開催し、資源評価及び管理における不確実性について理解を深め、今後の解決方法を検討し、データの改善や標本採取の強化等を勧告した。また、日本は本会合にて資源指標の改善を盛り込んだ調査計画案を提案した。SCRSは調査計画案を原則として支持し、科学調査クォータを使用した科学調査が不確実性の解消には必要とした。本件は、本会合において合意に至らなかったため、2014年7月に行政官・研究者合同会合を再度開催し、詳細を検討することとなった。2014年の総漁獲可能量(TAC)は、2013年と同様の1,750トン(日本は302トン)である。なお次回の資源評価は、従来の資源評価手法を用いて2014年に更新される予定である。

## 資源状態

親魚資源量は1970年代に大幅に減少した後、1980年代から近年まで1970年代初頭の25～36%で比較的安定していたと推定された。2006年以降、親魚資源量に増加傾向が見られ、2011年の親魚資源量は約18,000トン(1970年の36%)と推定された。前回(2010年)の資源評価では高水準と評価されていた2003年級の加入量は、最新の資源評価では前回よりも低く見積もられ、当該年級が2002・2003年級の両方で構成されるとの結果となった。しかし、これは漁獲物の年齢組成を推定する際に隣り合う年級群の判別が高齢になるにしたがって不鮮明になる技術的な問題によるものであり、現実には2003年級の加入水準は高かったと認識された。加入量(1歳魚)は1976年以降、2003年を除き、低いレベルで推移している。2013年のSCRSでは資源評価を行わず、各資源量指数の更新を行い、2012年の資源評価と判断が変わらないことを確認した。

## 生物学的特性

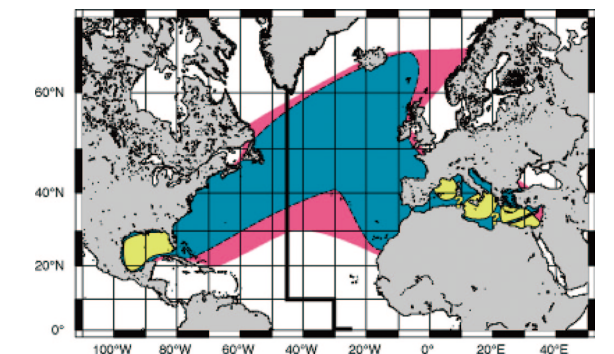
- 寿命：32歳
- 成熟開始年齢：9歳
- 産卵期・産卵場：5～6月、メキシコ湾
- 索餌場：北緯35度以北の大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類

## 利用・用途

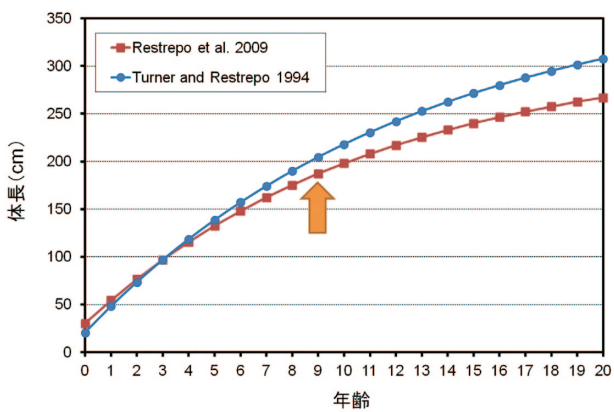
刺身・すしなど

## 漁業の特徴

主な漁業国は、米国、日本及びカナダである。日本は全てはえ縄、米国は釣りを主体にはえ縄・まき網を、カナダは釣りを主体にはえ縄で漁獲している。漁期は日本が11～3月、米国が主に7～11月、カナダは8～11月である。



大西洋クロマグロの分布域(赤)と主要漁場(青)、産卵場(黄) 索餌場は産卵場を除く分布域。縦太線は東西の系群の境界。



大西洋クロマグロ(西系群)の成長曲線 赤は2010年の資源評価で更新された成長曲線、青は更新前を示す。図中の矢印は成熟体長を示す。

### 管理方策

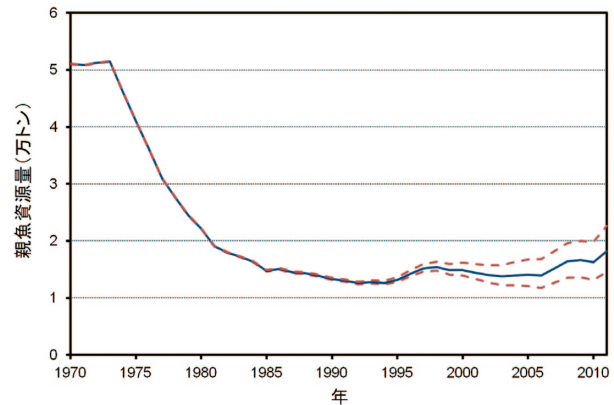
1998年にICCATは2018年までに50%以上の確率で最適な資源状態(SSB<sub>MSY</sub>)に回復させるという計画を決定した。SCRSは2012年の資源評価において、現在の漁獲量(1,750トン)を維持することは、2003年の卓越年級群を保護し、将来の資源量を増加させ、一方で漁獲量を2,000トン以上にすると、2003年級の卓越年級群が親魚資源量を下支えする可能性を阻害すると警告した。2013年の年次会合において、2014年のTACは1,750トン(我が国は302トン)と定められた。また他の規制として、115cm(または30kg)未満の個体の漁獲量制限(国別に漁獲量の10%未満とすること並びに小型魚から経済的利益を得ない方法を開始すること)、産卵場(メキシコ湾)における産卵親魚を対象とした操業の禁止及び漁獲証明制度(CDS: Catch Documentation Scheme)が実施されている。

### 資源管理方策まとめ

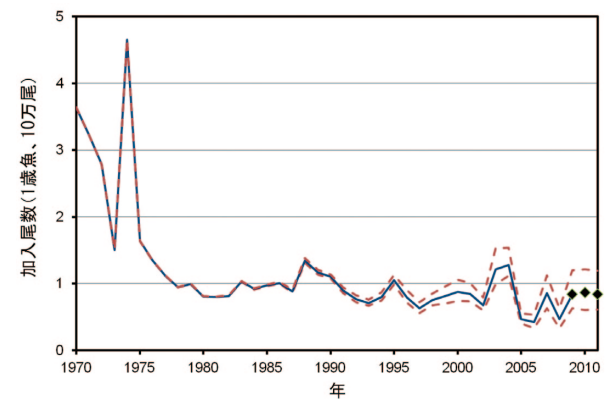
- 2018年までに50%以上の確率で最適な資源状態(SSB<sub>MSY</sub>)に回復させる
- 2014年のTACは1,750トン
- 小型魚漁獲制限
- 漁期・漁場の制限
- SCRSが資源崩壊の危機(資源の回復が困難な状況)を認めた場合、漁業を停止

### 資源評価まとめ

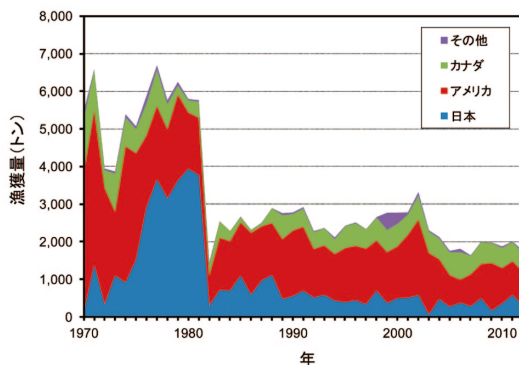
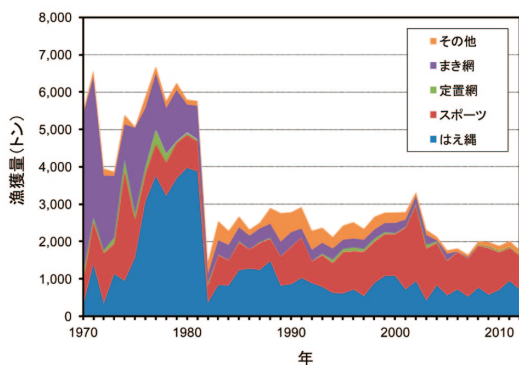
- 最新の資源評価は2012年にICCATのSCRSにおいて実施
- 2010年の資源評価において成長曲線を更新
- 親魚資源量は低位で増加傾向
- 加入尾数は低いレベルで推移。2003年は非常に大きい卓越年級群
- 不確実性は非常に大きい
- 次回の資源評価は、従来の資源評価手法を用いて2014年に更新される予定



本資源の親魚資源量の経年変化、上下の点線間は80%信頼範囲



大西洋クロマグロ(西系群)の加入尾数(1歳魚)の経年変化 上下の点線間は80%信頼範囲。最近年(2009~2011年)は信頼性が低いためマークを変えた。



大西洋クロマグロ(西系群)の年別漁法別漁獲量(上)と年別国別漁獲量(下) 漁獲量には投棄分も含まれる。

大西洋クロマグロ(西大西洋)の資源の現況(要約表)	
資源水準	低位
資源動向	増加
世界の漁獲量(最近5年間)	1,758 ~ 2,007 トン 平均:1,924 トン(2008~2012年) (投棄を含む)
我が国の漁獲量(最近5年間)	162 ~ 578 トン 平均:375 トン(2008~2012年)